

油を漏洩させたら、その回収費用はあなたに請求されます。

公共用水域等への漏えい事故がひとたび発生すると、河川や周辺の飲用井戸水等の汚染や悪臭の発生等により住民の健康や生活環境に大きな被害が生じたり、魚介類のへい死や農作物への影響など経済的な損失を生じることになります。また、事故の原因者にとっても汚染の原因究明と拡大防止、流出した油等の回収等復旧作業、更には損害賠償等への対応など多大の労力と経済的な負担を被ることになります。

【事例】 自動車オイルが缶に少し残っていたので排水溝に 500mL ほど流した。

- ① 不法投棄行為に当たり、1,000 万円(事業者だと 1 億円)以下の罰金
- ② 油回収のために使用したオイルフェンス、オイルマットの実費請求(約 5 万円)

【事例】 タンク配管の腐食等により油が約 900L 漏洩、一部は河川に流出した。

- ① 敷地内にも油が漏洩し、土壌を入替。(入替費用約 400 万円)
 - ② 油回収のために使用したオイルマットの実費請求(約 70 万円)
 - ③ 油処分費、環境分析費その他原状復帰に係る費用(約 30 万円)
- 約 500 万円



この事例では、当事者が保険に加入していたため全額保険から支払われたよ。

万一の油漏洩時に備えて、各種(ガソリンスタンド向け、農業向け、事業者向け)保険の活用も有効です。

でもやっぱり

未然防止が一番です。裏面のチェックポイントを参考に！



油流出事故の未然防止チェックポイント



- 1 地上タンク（農業ボイラー用重油タンク、漁業用燃油タンクを含む）
 - ・ タンクが固定されているか（台風や増水時に倒れ、農作物に甚大な被害を与える恐れがある）
 - ・ 油の漏洩により、入庫量と出庫量のズレが生じていないか
 - ・ 腐食・老朽箇所を点検・修理しているか
 - ・ 配管、配管接合部及び防護壁の劣化、ひび割れ及び油の漏洩痕はないか
 - ・ 給油ホースが劣化していないか、交換を行っているか
 - ・ 周囲は整理されているか、引火しやすいものはないか
 - ・ 施設等に進入防止柵や施錠を行っているか（農業用を除く）
 - ・ 防油堤は、設置しているか
 - ・ 暖房機を使用しない期間は、タンクの開閉栓は確実に閉めたか
 - ・ 防油堤内部に貯まった雨水は、定期的に点検し排水しているか
 - ・ 地下配管はどこを通過しているか把握しているか
 - ・ 耕起作業等で配管部分を損傷しないように十分注意しているか
- 2 地下タンク（農業ボイラー用重油タンク、漁業用燃油タンクを含む。）
 - ・ 法定点検はきちんと行われているか
 - ・ 地下配管の漏洩点検は定期に行われているか
 - ・ 油の漏洩により、入庫量と出庫量のズレが生じていないか
- 3 移動タンク
 - ・ 荷積み、荷下ろしの際、危険物取扱者が立ち会っているか（移動タンクにおける漏えい事故は、荷積み・荷下ろしにおいて、目を離れたときにあふれ出るケースが多くなっている）
 - ・ 移送時に危険物取扱者が乗車しているか
- 4 油水分離槽
 - ・ 油分の定期回収は行われているか
 - ・ 油分の処理は、産廃業者委託による処分等、適切に行われているか
- 5 その他
 - ・ 油流出においては、発生初期の迅速な対応が拡大を防止するうえで重要であることを周知しているか
- 6 緊急時の対応
 - ・ 通報、応急対応等、初動体制の確認はとれているか
 - ・ オイルマット、オイルフェンス等の準備は整っているか
 - ・ 緊急連絡網を整備し、目立つところに掲示しているか
 - ・ 日頃から緊急時の対処方法や管理について、職員等に指導、徹底しているか